

禁煙 コーナー

## タクシー禁煙化

広島県医師会禁煙推進委員

広島県済生会 済生会広島病院 讃岐 英子

遂に、やっと、広島県のタクシーが4月から完全禁煙になる。県タクシー協会と県個人タクシー協会に加盟する計7,234台が対象で全車の95%にあたる。広島県医師会禁煙推進委員会は以前より何度もさまざまな方法で啓発してきたがその壁は厚く実現しなかった。しかし、今回の禁煙化実現にはそれらの運動の積み重ねの効果もあったとされる。特に松村担当理事、川根委員長長のこれまでのご努力がやっと報われたといえよう。

広島での実現は38番目だという。最後でなくてほっとしているが、反面、ここまできたら「最後になって目立つほうがよいかも」と捨て鉢な気持ちでいたことも確かだ。「禁煙協力車」という摩訶不思議な妥協案?がかえって足をひっぱっていたと思う。現時点で未実施あるいはその予定もない県はというと、北海道の一部、青森、岩手、宮城、大阪、和歌山、山口、鳥取、長崎である。岡山は2008年4月に実施している。島根は2010年7月予定とのこと。中国地方の遅れが危惧されていたが、ここ広島で実現できた意義は大きい。

ご存知とは思いますが、タクシー禁煙化の必要性の根拠と、反対する理由をまとめておきたい。禁煙が必要な理由として、まず法的根拠であるが、①2003年5月に施行された健康増進法25条で、施設管理者の受動喫煙防止義務を定めており、「施設」にはタクシーも含まれること。②WHO主導によるFCTC(タバコ規制枠組み条約)を日本政府も批准しており、条約上の義務として受動喫煙の防止を図る必要があること。またその実現期限は2010年3月と迫っている。科学的根拠としては東大医学部田中ゆり氏等の研究によると、窓を閉め切った車内で乗客1人がタバコを吸うと、車内の粉塵濃度が国の環境基準(1m<sup>3</sup>あたり0.15mg)の12倍になり、1時間以上元に戻らない。2本で24倍、3本で32倍。後部座席の窓を5cm開けて喫煙した場合で

も9倍で、現状復帰に30分以上かかる。エアコンを使用して3人が喫煙すると50倍。直前の乗客が喫煙者だった場合には受動喫煙になる可能性が高い。特に、子ども、妊婦など喫煙の影響を受けやすい人にとっては脅威である。また、乗客だけではなく、狭い車内での乗務員の受動喫煙は深刻であり、心血管病や、肺癌での死亡率の増加、安全運転が阻害される危険性があるといわれている。乗客の喫煙のみではなく、乗務員自身の喫煙の問題もある。近隣のタクシー乗務員の喫煙率を調査させてもらったことがあるが、90%以上と非常に高かった。禁煙の希望も高いのだが、勤務形態の関係で禁煙外来の利用も難しい事情があるようだ。車内での喫煙は禁止されているとはいえ、タクシーの禁煙化は彼らにとって禁煙の最大の動機になるに違いない。

次に、禁煙タクシーにできない理由であるが、①乗客の要望が強い。特に喫煙場所が少なくなり、タクシーの中でこそ何の気兼ねもなく吸うことができるというお客に何と言えよいか。②タクシー業界に規制がなく、増え続ける台数、過酷な価格競争を背景に自分のところだけが抜け出すことはできない。③夜間の泥酔した客とのトラブルはさげたい。などであろうか。タクシーに自主的に乗る成人の喫煙率は25%以下であり、実際に禁煙が実現した県のトラブルはほとんどないと聞いている。

最後にちょっと気がかりなことがある。吸いたい客には車内で簡易灰皿を渡し、停車している時に吸ってもらうとのこと。どうだろうか。うまくいくだろうか。なかなかファジーで面白いことを考えられたものだ。禁煙後のトラブルと減収が心配のあまり、または、強烈な反対意見に対する苦肉の策であったのではないだろうかと推察する。関係者の苦悩が読み取れる。これを思うと、医師会としての継続した見守りと協力が必要であると言える。